

「君の名は。」高まる飛驒の名

表題は日経新聞 10 月 13 日夕刊。リードから記事冒頭まで一人気のアニメ映画「君の名は。」(新海誠監督)の舞台となった岐阜県飛驒市に全国から大勢のアニメファンが集まっている。映画に登場する図書館や駅はにわかに観光名所となり、スマートフォン(スマホ)を手にした若者らが詰めかけている。同映画のファンに特別サービスをする商店も現れ、地元は街の活性化の好機ととらえている。

「君の名は。」は東京に暮らす男子高校生と岐阜の山村の女子高生の交流を描いた映画。東宝配給で 8 月末の公開から 1 カ月で興行収入は 100 億円を突破した。

映画に登場する場所は JR 高山線の飛驒古川駅周辺が多い。構内の陸橋に列車の到着時間が張り出され、特急列車がとまる映画シーンと同じ構図の写真を撮ろうと、カメラやスマホを構える人でにぎわっていた。



『君の名は。』というアニメ映画よりも、飛驒市に関心がある。飛驒市は 2004 年 2 月 1 日、吉城郡古川町・神岡町・河合村・宮川村が合併して誕生した。面積 792 平方キロという広大な土地に、発足時約 3 万人の市が誕生して話題になった。

飛驒市といっても、もうひとつ「ピンとこない」が、やはり古川や神岡という地名には愛着がある。神岡は富山県境の日本有数の亜鉛の山、「神岡鉱山」で有名なところだ。城下町古川は朝の連続テレビ「さくら」の舞台となり、ドラマのモデルとなった和ろうそく店が有名になり、観光客も増加した。

じつは高山に住んでいたとき、古川に行ったことがなかった。古川は高山から北へ約 15 キロ、高山線で飛驒古川駅で降りる。写真は今から 10 年ほど前、古川に行ったときに撮ったものだ。若者たちで賑わうという飛驒古川駅とその周辺は閑散としていた。雪景色の凍てつく冬だった。整然とした町並みは、とても味わいがあった。温かい料理と地酒がとても美味しかったことを覚えている。



(2016 年 10 月 25 日)